日本の色㉒ 青竹：青竹のような色。青竹とは幹の青い、生の竹のこと。扇骨に使われる竹は、ほとんどが真竹と孟宗竹である。

やまと日本のこころ

連載第二十二回 実用性と芸術性

扇子で感じる日本の涼

真の国際化とは自分の国を知ること。
日本独自の発明品である扇子は、大陸へ上陸して世界へ広まった。
日本的なこだわりで、今なお根強い人気を誇る。

傷みにくく、邪魔にならない日本の知恵

扇子の歴史

折り畳め、持ち運びしやすい「扇」は日本で創られた。平安時代に発明された紙扇は中国にも伝わり、やがて世界中で使われるようになったのである。

平安時代：檜扇（ひおうぎ）と呼ばれる最初の扇は、記録用の木簡の一方を綴り合わせたもので、平安時代の初期には既にあったと思われる。元は宮中男子の持ち物であったが、後に宮中女子にも広がり、扇面は上絵で飾られ、雅やかな装飾品となった。やがて扇面を紙で作る紙扇が発明され、檜扇とともに中国に伝わり、さらに欧州にまで広まった。

鎌倉～室町時代：庶民の使用も許され、武家文化の影響もあり、芸能や茶道にも広く用いられるようになった。

江戸時代：冠、烏帽子作りとともに、「京の三職」として保護を受けるほど重要な産業となった。後期から大正中期までは輸出も盛んだったが、現在はほとんどが国内市場である。

扇子の種類

一口に扇子と言っても、その種類は目的によって異なる。普段使い、お茶会、そして祝儀・不祝儀の場。シチュエーションや季節に合わせて選ぶ楽しみもある。

夏の扇：普段使いの扇子。一般的に男持ち（男性用）は7寸3分（約22cm）で、女持ち（女性用）は6寸5分（約20cm）。

茶席扇：茶席に携帯する扇子。男持ちは6寸（約18cm）、女持ちは5寸（約15cm）。毎年干支にちなんだ柄も作られる。

式服扇：お見合いや婚礼の際に用いる祝儀扇と、不祝儀の際に用いる喪服扇がある。般若心経の書かれたものもある。

舞扇：日本舞踊に使われる扇子。各流派の紋入りの流儀物と、紋のない無流に分けられる。曲目に合わせた舞台物もある。

Ryoutarou Kojima

小島良太郎氏
1936年京都府生まれ。高校卒業後「京扇堂」に入社し、扇子作りや営業をこなす。60年に東京店オープンに伴い上京。現在は京扇堂 東京店営業部長を務める。

京扇堂 東京店：住所・東京都中央区日本橋人形町2-4-3　電話・03-3669-0046

text by 渡辺幸裕（案内人） ＋ photographs by 後藤 究

日本ならではの発明品

日本の夏は蒸し暑い。外国企業の中には、日本勤務に熱帯手当がつくところもあるそうだ。そんな高温多湿の国に住む日本人の発明の一つに扇子がある。団扇（うちわ）は中国から日本に伝わったと言われているが、折り畳める扇子は、日本から世界に波及した独自の発明品なのだ。扇子店の老舗、京扇堂東京店の小島良太郎氏に話を聞いた。

扇子と扇の違いは？ という疑問に「小さい扇だから扇子、というのと違いますか？」ときれいな京言葉で返ってきたが、実のところ文献にもないらしい。

扇子は単に涼を取るだけの道具ではない。今回の取材では芸術品から実用品まで、実に豊富な種類があることに驚かされた。日本舞踊や能楽、お茶席、そして落語でも大切な小道具として使われている。何より持ち運びしやすいという、普段使いにおける実用性の高さが、今も愛用されているゆえんだろう。

親指で前にぐっと押して開け、締める時にパチンと音がするほど

繊細さにこだわる京扇子

良いものである。

扇子が完成するまでには、30ほどの工程があり、そのほとんどが手作業で行われている。扇子の良い香りを長持ちさせるため、扇面紙の中に挟み込む扇骨の先に香水を染み込ませるなど、細部にも日本人ならではのこだわりがある。そんな職人の仕事に敬意を払い、ハリセンにしたり、バタバタとシャツの中をあおぐようなはしたない真似をせずに、あくまでも優雅に格好よく扇子を使いたいものである。

日本が誇る最高のギフト

制作に手間がかかっている割に安く手に入るため、ギフトとしても最適だ。ある商社では海外で、ギフトとして扇子を用いている。扇子の由来、使い方を記した英文説明書もつけており、大変喜ばれているという。プレゼントする際に、扇子に関しての知識を持って少しでも説明できたらなお素晴らしい贈り物になるだろう。

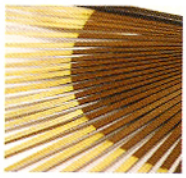
また、扇子立てをセットにすると、贈られた方はインテリアとしての活用もできる。

季節を感じさせる絵柄の扇子を飾れば、そこには小さいながらも日本を感じさせる世界が広がる。こんなしゃれたプレゼントはより良い関係を作り出すことであろう。

扇子ができるまで

1本の扇子ができるまで、約30の工程がある。
分業形態でそれぞれの職人が手作業で行う。
いくつもの細かな作業を経て、ようやく完成するのだ。

扇骨にも種類がある(表)



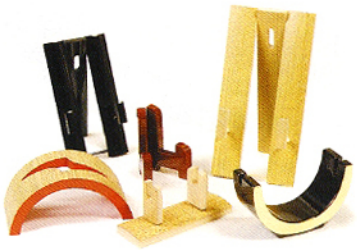
扇骨の裏

扇骨加工：竹の節を取り同寸法に切り、縦に割る。ゆでてアクを抜き、竹の内側をはぐ。要(かなめ)を通す穴を開けたら、串を通し板状にする。これを扇骨の形になるように削り整え、磨きをかける。天日にさらし、さらに磨きをかけ、必要に応じて塗りを施す。その後要をつけ、紙の間に入る部分を薄く削る。

地紙加工：芯となる薄い和紙の両面に、皮紙という和紙を張りつける。乾燥させ扇形に切り、絵を施す。適度に湿り気を与え折り目をつけて乾かし、扇骨を入れる空洞を作る。圧力をかけて折り目を安定させたら、上下の不必要な部分を裁ち落とす。空洞に糊をつけた骨を差し込み、圧力をかける。両端の骨を地紙の外側に張れば完成。

扇子立て・扇子袋

季節に合った絵柄の扇子を部屋に飾れば、
そこに小さな世界が広がる。飾るための小道具扇子立てと、
扇子の持ち運びに便利な扇子袋を紹介する。



扇子立て：扇子を広げて飾る時に用いる。飾る扇子の大きさや、好みのデザインによって選ぼう。

扇子袋：扇子袋にももちろん、舞扇用、茶席扇用、夏の扇用などがある。入る本数や素材・形も様々ある。

さらに深める参考情報…

【書籍】
「棋士と扇子」
(山田史生著、里文出版)

【ウェブサイト】
京扇堂
http://www.kyosendo.co.jp/
京扇子・京うちわ
http://www.sensu-uchiwa.or.jp/
舞扇堂
http://www.maisendo.co.jp/
会員制有料サイト ジャパン・ナレッジ
http://www.japanknowledge.com/

――涼を感じる夏の装い――

紺地に蝶の飛び柄が涼しげな縦絽の着物。薄いグレーの紗の帯を合わせた。(西田明紀さん＝読者、サービス業勤務)

若松菱両面染めの綿の浴衣。裾が翻った時や袖口から裏面の柄がちらりとのぞくのがおしゃれ。紗献上の角帯を合わせる。(渡辺幸裕)

着物撮影協力／銀座もとじ

案内人・文 渡辺幸裕(わたなべ・ゆきひろ)
ビジネス・コーディネーター。1950年生まれ。前職のサントリー宣伝部で、海外イベントを担当した時、自国文化についての知識のなさを痛感。2001年独立を機にビジネスパーソン向けに日本文化超初心者の会"和・倶楽部"を提唱、運営中。会のコンセプトは「日本人に生まれたことを喜びたい」。

[告知]

日本かぶれの会
オリジナル扇子を作る会

老舗扇子店、京扇堂本店の絵付け教室に参加し、オリジナルの扇子を作ります。世界でたった一つ、自分だけのオリジナル扇子を作ってみませんか？扇子作りの後には懇親会も考えております。ぜひご参加ください。

日時：8月27日(土)13:00～16:00
会場：京都・京扇堂 本店
募集人数：20人
参加実費：2200円
締め切り：8月2日(火)
応募方法：http://nba.nikkeibp.co.jp/yamato21/で必要事項をご入力ください。
発表：抽選のうえ、当選者に直接ご連絡します。

ご応募いただいた方に、本誌の取材協力者として取材や写真撮影をお願いすることがございます。ただし、これら以外の目的で応募者の個人情報を使用することはございません。